

12月定例議会 町政報告

町政報告要旨

▼除雪体制

7月12日、「小坂町雪対策連絡協議会」を開催し、今冬の活動方針や除雪計画等を説明し、意見交換をしました。

今年度も、自治会内の共助により行われる除雪作業の燃料費を町が補助するなど、町民に必要とされる施策を引き続き実施していくほか、空き家などからの落雪対策などについて、引き続き皆さんといっしょに検討していきます。また、今シーズンから新たに一本杉地区の融流雪溝が稼働を開始し、付近住民の冬期の生活環境向上を図ることができることになりました。

今冬の道路除雪は、昨年同様、小坂まちづくり株式会社などに業務を委託し実施するほか、大地自治会では今年度も自治会で地域内の除雪を実施します。

▼避難所設置訓練

11月1日、向陽体育館に

おいて、町民や町社会福祉協議会職員、町職員を対象とした避難所開設運営訓練を実施しました。

防災アドバイザーが「避難所の開設と運営の手順」について講話で伝えた後、参加者は3グループに分かれ、段ボールベットや防災用テントの組み立て体験、N・T・Tによる災害用伝言ダイヤルの利用体験、無臭元工業による簡易トイレと衛生管理の説明がありました。

本訓練には、17自治会から39人、町社会福祉協議会職員8人、町職員13人、合わせて60人が参加しました。今後、町では防災アドバイザーや鹿角広域行政組合消防署の協力・指導を仰ぎながら、訓練を実施していきたいと考えています。

▼令和5年度産米の

生産状況

令和5年産の米生産については、需要に応じた米生産に生産者自らが取り組みを行う新たな枠組みとなる「生産の目安」を参考とする

生産計画の6年目になりました。

はじめに、主食用米の生産状況であります。秋田県から示された「生産の目安」をもとに、鹿角地域農業再生協議会で鹿角地域の「生産の目安」を算定され、その結果、小坂町の主食用米の目安数量は1,088トン、目安面積換算では208.5ヘクタール、目安率は51.4%となり、各農家には目安率に応じた個別の目安となる面積等をお知らせしました。

各農家には、通知した「生産の目安」を参考に水稲生産実施計画書を提出していただき、農林班で春・夏・秋の転作物等取組状況の現況を確認した結果、町の主食用米の最終取組面積は前年より22.1ヘクタール増の181.3ヘクタールとなりました。町の生産の目安は達成していますが、主な転換先である飼料用米が前年より19.1ヘクタール減少しています。

次に、米の集荷状況についてですが、10月31日現在で、7,454俵の集荷量となっています。農家からの予約申し込み数量は、8,156俵でしたので出荷率は91.4%となりました。

日現在の集計で3万2,821枚が使用され、利用率は96.2%となっております。

▼第15回ふるさと小坂会

総会・親睦会

11月25日、東京都の「KKRホテル東京」を会場に、総勢約100人による総会及び親睦会が、コロナ禍を経て4年ぶりに開催されました。

なお、鹿角市は85.5%で、東北農政局発表の秋田県産水稲うるち玄米1等米比率は、9月末現在で62.6%となっております。

▼地域商品券事業の

使用状況

小坂町地域商品券事業は、コロナ禍における原油価格・物価高騰対策として、地域経済の回復支援と個人消費の拡大を促進させるため、2,275世帯に、町内各事業所で使用できる千円の地域商品券15枚、1万5千円分を送付しました。

10月末が使用期限となっていました商品券の利用状況は、千円券の送付枚数3万4,125枚中、11月17

親睦会では、町の近況として、「日本山どうワインコンタールの開催」「和井内エリア道の駅整備」などについて紹介しました。また、小坂小・中学校の活動紹介や小坂高等学校の統合について、各校長先生から報告したほか、昨年から康楽館常打芝居に出演している男性レビュショー「神崎順&10carats」のミニ公演、お楽しみ抽選会で会場は大いに盛り上がりました。会場の一隅には物販コー